

“魅力に迫る会” ダイジェスト

秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場

星をかすめる風

10月例会『星をかすめる風』の“魅力に迫る会”は、青年劇場代表であり俳優の北直樹さんを迎えて、8月28日（木）に天神山文化プラザで開催されました。

ご自身のこと、演劇のこと、作品のことなど、熱く熱く語られた1時間半でした。（昼の部193人、夜の部112人の参加）

出身は網走です

出身は名前の通り、北は北、北海道の網走で、実家の近くに網走刑務所がありました。今回の舞台では福岡刑務所の看守役で登場します。これも運命だったのかと思います(笑)。

青年劇場入団のきっかけは

東京の演劇科のある大学に進学し、卒業論文のテーマに選んだのが『夜の笑い』を書いた喜劇作家・飯沢匡について。その時『夜の笑い』を上演していた青年劇場の芝居を観ました。それまで青年劇場という劇団のことは全く知りませんでしたが、社会派喜劇というか、単に面白おかしいだけではなく、社会の問題、人間の愚かさ浅まさとか、でも人間っていいなあということが描かれていて…面白かったです！

それから青年劇場からのDMが届くようになって、その中に「劇団員募集」と書いてあり、面接に行きました。ちょうど学校公演班の準主役級の俳優が突然辞めたところで、背丈格好がぴったしだったのか、入団して3日目には役が付いて、1か月後には旅公演に出していました。ちょっと特殊なこ

とですね。

俳優と劇団代表、2足のわらじ？



1989年に入団して36年目です。2022年に3代目の劇団代表になりました。常に両方のわらじで歩くというよりも、今は俳優、今は代表とうまく使い分けながらやりたいけれど難しいので、いろんな人たちの力を借りながら劇団運営をやっています。

2016年『島』で来岡

主に学校公演に出ていたので、演劇鑑賞会の公演は『島』が初めてでした。岡山では“作品賞”をいただいて、その中の一員であったことでとても思い出深い場所です。

秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場とは

正式名称は「一般社団法人 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場」です。おそらく日本で一番長い劇団名だと思います。秋田雨雀と土方与志という2人に教えを受けた8名の先輩たちが61年前に立ち上げた劇団です。

秋田雨雀は非常にヒューマン。人間にある温かい芝居創りを信条とされた先生。土

方与志はリアリズム。社会を見る目の確かさ、厳しさ、そういうものが演劇には必要になるということを理念としていた方。2人から受け継いだヒューマニズムとリアリズムは、劇団の大きな柱になっています。

人間がより人間らしく生きられる世の中、今よりも少しでもましな世の中になつたらいいなという思いを持って芝居創りをしています。

『星をかすめる風』はどんなお話？



舞台は福岡刑務所。1944年から45年にかけてのお話で、大変な戦争の終盤に差し掛かっている時代です。当時の大好きな特徴は、日本がアジアのいろんな国を植民地化していたこと。その中には朝鮮も入っていて、朝鮮人の犯罪者たちを福岡刑務所に収監していました。刑務所の中で殺人事件が起きます。殺されたのは“死神”といふあだ名で恐れられていた看守の杉山。それが私の役です。いきなり死体で登場します。

なんで“死神”が殺されたかというのが、この芝居の大きなテーマになります。青年看守の渡辺が捜査を命じられます。看守の渡辺を演じるのが岡山出身の岡山豊明です。囚人なら誰もが恨みを持っている杉山。死んだ杉山のポケットから、わら半紙に書かれた一編の詩が出てきます。そこから詩人の尹東柱（ウン・ドンジュ）に出会います。

尹東柱は後々知られることになりますが、韓国では教科書には必ず載っている、知らぬ人はいない国民的詩人です。尹東柱は治安維持法違反で収監されました。それと並行して九州帝国大学の医学部の一団が刑務所に配属されて来ます。

杉山を殺した犯人は誰なのか、九州帝国大学がやろうとしていたことは何なのか、日本という国が何をやろうとしていたのか、いろんなことが明らかになっていきます。

シライケイタさんと『星をかすめる風』

脚本・演出のシライケイタさんは、日本の演劇界の中で、現代の演劇表現の一つの最先端、完成形を創っている演劇人の1人で、「いつか一緒に仕事をしたいね」と言っていました。題材を探していたら、ちょうど韓国の作家イ・ジョンミョンが書いた「星をかすめる風」が刊行されました。シライさんは日韓演劇交流センターの会長でもあり、日本と韓国との問題を題材にしている作品も多いし、シライケイタさんに読んでもらったら「これいいですね、これでいきましょう」ってことになったのがきっかけです。

本人もとても乗り気になって、ちょうど2020年2月にコロナ禍になり外出できなくなつたので、家に籠ってゆっくり芝居が書けるぞと思ったそうです。ところが、取り掛かろうとしたら全く筆が進まなかった。演劇は舞台の上からマスクをしないで飛沫を飛ばしまくって、コロナ禍で一番やってはいけないことを、全部やっている芸術じ

やないですか。不要不急な芸術とまで言わ
れたわけです。気持ちが折れそうになっ
た
そうです。それでもどうにか書き上げて
2020年9月の初演になりました。

コロナ禍の舞台

その時、客席は50%制限がかかっていま
した。お客様が半分というのは、なんか
遠くに向かってお芝居をする感じで、本当
に自分たちはどこに向かってお芝居をやっ
ているんだろうと思うくらいに辛い思いを
しました。

その時お芝居を観てもらった方から「演
劇は不要不急ではなく必要不可欠です。生
の芸術こそが、コロナが明けて一番必要な
のではないか。人と人が会って触れ合
って生まれるもののが、これから世の中には
必要になるのではないか」と言われました。

シライケイタさん、オリジナルのせりふ

シライさんはほとんど原作に忠実に書か
れていますが、コロナ禍を経てシライさん
が追加したせりふがあるので紹介します。

看守長に「尹東柱の書いた詩は悪だから
燃やせ」と言われた杉山が抵抗するシーン
です。

——「お言葉ですが看守長、戦争はいつか
終わります。外地から兵隊が戻って来ます。
生き残った人々は、再び生きていかなければ
ならないのです。その時、疲れた人々の
心を癒すものも必要です。詩や音楽には
その力があります。残すべきです。むやみ
に燃やすべきではありません」——

今こそ必要なものは文化なんだ、芸術な

んだということを伝えたくて私（杉山）に
言わせたせりふです。

芝居の中で、音楽が大きなエッセンスに

全編にシユーベルトの歌曲「冬の旅」の
中から、シーンごとに違った曲が効果的に
使われます。有名な「菩提樹」も。後半では
イタリアの第二の国歌、ヴェルディのオペ
ラ「ナブッコ」の中の楽曲が使われています。

ポスターの男性は誰？

見方によっては、尹東柱に見えなくもない。
でも例えば、自分のお兄さんであったり、
旦那さんであったり、どこかで会った
ことのある人かも…。しかも表情も見方によ
っては泣いている？ うっすら笑っている？
いろんなものに見えればいいなど。
人間は一様ではないんだよ、ということを
表現したかったのです。

舞台セットは、想像力に任せよう

舞台は刑務所の中。セットは本当にシン
プルです。2階建ての構造にして、上で行
われていること、下で行われていること、
高低を付けることで臨場感が出せるよう
になったらしいなと。あとは観る人の想像力
に任せようとシライケイタさんは決めまし
た。



演劇は想像力が一番研ぎ澄まされる芸術じゃないかと思っています。

ラストシーンは圧巻！

シライケイタさんが最初に思い浮かんだのがこのシーンです。

尹東柱が「星をかぞえる夜」という美しい詩を韓国語で朗々と読み上げます。尹東柱役の矢野貴大はものすごい美声の持ち主です。舞台には大きな黒い布が降ろされ、そこには日本語で詩が書かれています。また詩の内容がいいんですよ！ 自然を愛し、星とか風とか、それが随所にちりばめられていて、その中で二度と帰ることができない故郷への思い、お母さんへの思い…。期待してください。

キャスティングはどのように？

シライケイタさんは初めてなので、うちの劇団の俳優を知りません。とりあえずこの時期に入れるメンバーで、毎回役を替えて読み合わせをしました。それを聞きながらシライケイタさんが考えて決めました。私は原作を読んだ時から看守の杉山をやりたいなと思っていたので、読み合わせの時にも杉山に力を入れていました(笑)。

私もそうであったように、シライケイタさんがそれそれがこれをやれたらいいなというキャスティングをしてくれたんじゃないかな。そのこともこの芝居の成功の一つの要因かと思っています。

誘う時の決め台詞はありますか？

ひと言で言うのは難しいけれど、例えばこの芝居を観たら人間であったことを誇り

に思うだろうし、自分も人間なんだ、しかも血の通った人間であるってことを再認識できるし、もしかすると今よりも少し隣の人に優しくしてみようとか、あの人に今度は声をかけてみようかな、そんな風に思えるようになるかもしれない。特にこの『星をかすめる風』ってお芝居にはそのぐらいの影響力があると思います。

ひと言で言えば、「劇場に入る前と、観終わったあとで、あなたがもしかしたら変われるかもしれない」って言ってもらってもいいと思います。

会員のみんなへ、
北さんからメッセージ



演劇という芸術は、本当に人がいなければ成立しない。人間が創り上げるものを人間が生身で観ているから生まれる芸術なんだと思うのです。だから1人でも多くの方にこのお芝居が届けられれば、ご自身もそうかもしれないし、この岡山が、もっと言えば日本という国が、もしかすると世界というものが今よりも良くなるかもしれないぐらいに思っています。

ぜひ前例会クリアで迎えてください。やっぱり私たちにとっては何よりの励みになります。私たちも精いっぱいこのお芝居を練り上げて、ブラッシュアップして最高の状態で伺います。お互いに最高の状態で出会えたら嬉しいです。一緒にいい舞台を創れるように最後まで頑張りましょう。

